

編集後記

近年増加傾向にある口腔がんの予防には、日常的に患者を診る『かかりつけ歯科医院』の役割が極めて重要です。腫瘍専門医は先生方からご紹介を受けて初めて成り立つ生業です。一般開業歯科医院が口腔がん第一発見のゲートであり、その先生方がまさにフロントランナーです
(柴原孝彦)

2019年度に国際歯科学士会日本部会に入会させていただきました。早いもので6年が経ちました。国際歯科学士会日本部会雑誌は、年間の活動報告はじめ、専門性を持つ先生方にご執筆をいただく特別企画、新入会員のフェローのご紹介など、豊富な内容で構成されております。フェローの先生方のご希望・ご意見を伺いながら、次号に続けていきたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
(野中直子)

編集委員として本学術誌の多岐にわたる興味深い内容に触れ、歯学領域の広がりを改めて実感し、刺激を受けました。さらに今回、「口腔インプラント学卒前教育の変遷」として自身も執筆できたことを大きな喜びとなっています。本誌が今後も歯科医療の発展に寄与することを願っています。
(片岡 有)

今年も暑い夏でした。毎年、『今年は去年より暑いですね』という挨拶が常套句になってる気がします。もう観測史上最高とか今までに経験したことがないという言葉も当たり前になりました。また、線状降水帯、ゲリラ豪雨という語句もすっかり定着した感があります。まだまだ残暑厳しい日々が続きますが、通常夏にはあまりはやらないといわれるコロナやインフルエンザ気をつけ、夏を乗り切りたいと思います。今後ともより良い紙面になりますよう微力ながら務めて参ります。
(坂本輝雄)

今回3回目の会誌の発刊にたずさわらせていただきました。インプラント、予防など、これからの歯科医療についてなど多岐に渡り、とても内容の濃い会誌が出来たと思います。査読しながら、自分が勉強するような感じで、まだまだ、未熟者ですが、微力ながらもお役に立たのか?と感じています。発刊にあたりご寄稿いただいた先生方、ご協力いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。
(酒向 誠)

広島に戻り、地域歯科医療に従事するようになって2年が経ちました。大学を定年退職してからは、以前のように委員会活動に積極的に参加できず、心苦しく感じております。しかしながら、本誌を手取るたびに、先生方の幅広いご研究やご寄稿に触れ、学びと刺激をいただいております。臨床現場では、患者さんとの一つ一つの出会いが新たな気づきを与えてくれます。教育や研究の場から距離を置いた今だからこそ、歯科医療の原点や地域医療の重要性を改めて実感しています。本誌が引き続き、会員の皆様にとって有益であり、若い世代の先生方にとっても道標となるよう心から願っております。私自身は微力ながら、これからも関わり続けられれば幸いです。
(佐藤裕二)

昨年6月から1年間、ベルギーで在外研究を行っていたため本委員会を離れておりましたが、このたび復帰いたしました。海外での研究生活は最新の知見を学ぶ貴重な機会となりました。それ以上に、文化や言語の異なる人々と交流し、これまで国内中心であった視野を国際的な広がりの中で考えるようになったことは大変意義深い経験となりました。新たな気持ちで委員の皆様とともに誌面づくりに取り組み、読者の皆様により良い巻をお届けできれば幸いです。本号発刊に際し、ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。
(堀江 卓)

今回初めてICDの編集委員の一人として論文を拝読させていただきました。御高名な研究者や臨床家の先生方ばかりで圧倒される思いで臨みました。率直に感じたことは皆様、未来の歯科をポジティブに捉え、後進に引き継いでいくことの重要性を述べられている点です。その中で改めて口腔完結型から生活習慣病の発症予防、重症化予防へと歯科診療が移行しているという文言が印象的でした。
(米山武義)

2025年 9 月 25 日 印刷
2025年 9 月 30 日 発行

国際歯科学士会日本部会雑誌第56巻第1号

発行 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

一世出版(株)内

T E L : 03 (3952) 5155

F A X : 03 (5982) 7751

E-mail secretary@icd-japan.gr.jp

発行者 富士谷 盛興

印刷所 一世印刷株式会社

東京都新宿区下落合2-6-22

T E L : 03 (3952) 5651

F A X : 03 (3953) 7751